



平成24年度准フォレストラー研修の現地実習

ろですが、この度、一般会計化に伴い、民有林の支援につながる取り組みをより強化していくため「森林技術・支援センター」と組織の名称変更を行いました。今後につきましては、民有林との連携及び技術支援という国有林に求められている役割を踏まえ、地域で求められる林業技術の開発・普及や研究機関の行う現地調査との連携、准フォレストラー研修、林業専用道技術者研修等の人材育成に取り組む、森林・林業再生により一層貢献できるよう、創意工夫しつつ取り組んでいきたいと思っておりますのでご支援、ご協力をお願いいたします。

森林と人とのふれあい活動を推進します

「木曾森林ふれあい推進センター」

木曾森林環境保全ふれあいセンターは、平成十六年に設置され、主に木曾郡内の国有林をフィールドとして自然再生活動や森林環境教育等の活動に努めてきたところですが、四月一日の一般会計化に伴い、森林と人とのふれあい活動を更に推進していくため、「木曾森林ふれあい推進センター」に組織の名称変更を行いました。

今後につきましては、民国連携を念頭に今まで以上にふれあい活動等に取り組んでいきますので、よろしく願っています。



木曾森林ふれあい推進センター職員

各地からのたより

地域伝統文化貢献の森づくり

「御柱の森」の継承に向けて

〔南信署〕三月二十二日（金）、下諏訪町役場において、協定期間が満了を迎える「御柱の森」森林整備協定を更新するための協定締結記念式典が開催されました。

「御柱の森」は、諏訪地域を代表するお祭りである御柱祭に使用するモミを育成するための森林で、このような地域の祭礼行事を支援するための「木の文化を支える森」としては、中部森林管理局管内では最初に設定されたものです。

当地域では、古くから諏訪大社下社の御柱用材として東俣国有林からモミの巨木が供給されてきました。当初の協定は、前々回の御柱祭を目前とした平成十四年十一月に「御柱森づくり協議会」との間で調印がなされ、御柱の森を育成するために結成された「御柱の森を育む会」が中心となり、御柱用材の候補木を育成するため、モミの植樹、つる切り、歩道修理の外、ニホンジカの食害から守るためのバークガードの設置に積極的に取り組んでいます。今回協定期間の十年が経過することから、「御柱の森」を継承していくために、更新を行ったものです。

当日は、下諏訪町長と諏訪大社宮司の

立会の下、協議会の高木会長と田中南信森林管理署長が協定書に書名を行い、その後のあいさつでは高木会長から「御柱祭が未来永劫続いていくように森林の整備活動を継続していきたい。」と述べられました。三年後に開催される御柱祭の最初の行事である御柱用材の仮見立てが今年から始まることもあり、御柱祭への熱い思いが感じられました。また、田中署長からは「地元の伝統行事である御柱祭を後世に伝えていくために、国有林としても最大限協力したい。」と述べたところでです。



協定書を手にする代表者（左から二人目が署長）

当日は、地元のマスコミも多数訪れ、地元地域の伝統文化になくはならない資材の育成のために、国有林を活用する「木の文化を支える森づくり」の取り組みについてPRすることができました。

当地域一帯は、シカの爆発的な増殖によりモミの巨木ですら剥皮被害を受けている状況の中で、御柱祭を継続するにもシカ対策は最重要課題となっておりますので、南信森林管理署としても、下諏訪町等と連携し、ニホンジカ対策を更に推進していきたいと考えています。

水内森林事務所が完成

〔北信署〕平成二十四年度に、下水内郡栄村に新築工事を実施していた水内森林事務所が完成しました。

当森林事務所はJR飯山線森宮野原駅通りの村内中心部に位置しています。平成二十三年三月十一日東日本大震災の翌日、栄村を震源とする震度六強の長野県北部地震が発生し、甚大な被害を受けて使用が出来なくなったことから、建替えとなりました。

栄村は、日本有数の豪雪地帯であり、多い時には積雪が五メートルとなることから建物の一階がRC造りの車庫及び倉庫、二階が木造建ての事務所及び居住部の和室・洋室になっており、延床面積が百六十三平方メートルです。材料には、スギ・カラマツ等の地域材を使用しています。事務所部分にはカラマツを腰板材及び床材に使用し、来所された方に木のぬくもりや暖かみを感じていただけるよ

うになっています。栄村に来た際には是非お立ち寄りいただき、復興に向けて歩んでいる姿を御覧ください。



看板を抱える前水内森林官



北信森林管理署 戸隠森林事務所

地域統括森林官 藤井四郎

戸隠森林事務所は、平成二十五年四月から旧長野森林事務所管内も管轄することとなり、その区域は、戸隠・鬼無里・飯綱高原から保科山・米子山・高山までの、約一万四千ヘクタールとなりました。

戸隠森林事務所が位置する戸隠高原は、長野市北部の標高千メートルから千五百メートルに広がる、周辺を「信越五岳」にも名を連ねる戸隠山、飯縄山、黒姫山に囲まれた地域です。この地域は、日本海側気候、内陸性の気候、亜高山帯気候など、さまざまな気候帯から成り、多くの植物が見られ、トガクシシヨウマ、トガクシデンダ等の固有種も多い地域です。



トガクシシヨウマ

また、古くから戸隠神社を中心とする信仰が盛んに行われており、古来より多くの参拝客が訪れてきました。この地域はその森林のほとんどが国有林であることに加え、山岳景観や人文的景観が優れていることから、上信越高原国立公園に



植物園の開園に向けての除雪

指定されています。戸隠高原は野鳥の宝庫としても知られ、国有林内に位置する戸隠森林植物園にも多くの野鳥観察者やカメラマンが訪れます。

現場の仕事は、この植物園の除雪から始まります。雪解けが進み、ミズバショウやリュウキンカが咲き始め、野鳥のさえずりがにぎやかになった頃、植物園の開園作業が完了します。

開園期間中は木道のメンテナンスや草刈り、植物保護のためのパトロールなど、きめ細かな管理を行います。季節はあつという間に春から夏、夏から秋へ移り、そして十一月には初雪が降り、冬を迎えます。わずかなグリーンシーズンの間に造林事業などさまざまな業務が行わ



厳冬期の間伐事業

れます。地域の山岳関係者で実施する登山道点検など、登山の機会が多いことも業務の特徴です。冬になると、背丈を超えるネマガリダケも雪の下に隠れ、スノーシューをはいて効率的な現場巡視ができるようになります。スキーやクロスカントリイを楽しむ人たちもたくさん訪れます。平成二十四年度は十二月から二月にかけて、積雪約二メートルの条件下で、間伐が行われました。

このように、戸隠森林事務所では一年を通じて、豊かな自然の中で季節の移り変わりを肌で感じ、歴史ある戸隠神社の伝統文化に触れながら、また地域と密接に関わりながら仕事をする事ができます。



戸隠高原には、今年も豊かな自然を求めて多くの人が訪れることでしょう。これからは生き物たちも活動を始め、にぎやかな季節を迎えます。



散策を楽しむ人々で賑わう戸隠森林植物園

①岩手県八幡平市
②空手・妄想
③わからないことは早めに聞いて仕事を覚えて頑張っていきます。よろしくお願いします。



はたけやま まさちか
岡山 優親
(木曾署)

平成二十五年四月、二名(一般職)の職員が採用となり、管内各署に配属となりました。

新規採用者の皆さんの抱負等を紹介いたします。

☆一般職

新規採用者の紹介

どうぞよろしく
お願いします。

- ① 出身地
- ② 趣味・特技
- ③ 社会人になったの抱負

- ◎長野県植樹祭
5月25日 長野県佐久市
- ◎とやま森の祭典
5月24日 富山県滑川市
- ◎岐阜県みどりの祭り
5月18日 岐阜県山県市
- ◎愛知県植樹祭
5月11日 愛知県豊川市
- ◎愛知所・木曾署管内
- ◎名古屋シティ・フォレスト事業
5月11日・17日
- ◎森と花の祭典
「みどりの感謝祭」
5月11日～12日 東京都日比谷公園



きむら ゆうこ
木村 有子
(飛騨署)

①長野県木曾町
②マッサージ(特技)
③「自ら学びにいこう」という気持ちで常に持ち続け、仕事に励んでいきたいと思えます。よろしくお願ひします。



ふう けい き こう

風景紀行

木曾町福島 歴史探訪

96

木曾森林管理署
(各署の景勝地等を紹介)

「木曾路はすべて山の中である。」島崎藤村の著書「夜明け前」の冒頭の一節です。

木曾郡木曾町福島は、そんな山の中にある木曾路の中心地です。

木曾町福島には現在も福島関所跡が残っています。

関所は、関が原の合戦後に作られるとともに徳川家康によって木曾代官に登用された山村氏が直接管理していました。当時は東海道の箱根・荒居、中仙道の碓氷の関所とともに最も重要な関所でした。



福島関所跡



山村氏の代官屋敷

た。

関所は、木曾川の東岸（左岸）に置かれ、急峻な尾根筋が東側から迫り、木曾川へ三十メートルもの崖になっていて、通過する場所が狭く、関所を置くには絶好の場所でした。

初めは軍事的な意義を持って設けられたようですが、大阪夏の陣が終わり天下統一の後は「出女・入鉄砲」といって、江戸方面から出てくる女性と、江戸に入る鉄砲を取り締まることが大きな目的とされました。

古来より木曾地方の政治経済の中心地であった木曾町福島ですが、広い平野部がなく、町なかの至る所に急坂と崖があり、木曾川沿いには崖屋造りと呼ばれる家々が並ぶとともに両側の山の中腹まで家が建ち並び、木曾路の宿場町の中でも独特の景観を生み出しています。

イベントは、春の興禅寺の時雨桜、夏の「天下の奇祭」水無神社の御輿まくり、木曾踊り、木曾義仲旗挙げまつり、秋の関所まつり、冬の雪灯りの散歩路など満載。食べ物には、そば、木曾の清流で育ったイワナ、ヤマメ、ワカサギ、五平餅、そば饅頭、ほお葉巻き（ほお葉で包んだお餅）、すんき（野沢菜を乳酸菌醗酵させた無塩の漬物）とおいしいものがいっぱい、また、木曾路の温泉の約三分の二が木曾町に集まり、天然温泉の肌触りで疲れた体も癒され、町なかにある木曾川親水公園内にある「二本木の湯」を源泉とする無料の「きそふくしま温泉足湯」や健康歩道で足をリフレッシュして、町内の歴史探訪を堪能し、日頃の疲れを癒してみても良いでしょう。



木曾川沿いの崖屋造り



雪灯りの散歩道



木曾福島温泉足湯

アクセス方法

【公共交通機関】

J R 中央西線木曾福島駅下車

【家用車】

中央自動車道中津川 I C 国道十九号線経由約一時間十五分、長野自動車道塩尻 I C 国道十九号線経由約五十分